

ほかの伊豆諸島からは利島, 新島, 神津島, 御蔵島, 八丈島から知られ, すべてが伊豆諸島亜種とされている (Akita & Masumoto, 2013).

以上, 15 種を確認した. その多くは普通種であるが, 伊豆諸島初記録 4 種, 大島初記録 12 種を含んでいた.

今回の調査は, 時期や調査地点, 採集法も限られる. また, 伊豆諸島最北の大島からは伊豆諸島の他島からは確認されていない本土との共通種がほかの甲虫でも少なからず記録されている. そのため, 将来, 調査が進めば, これまで伊豆諸島から確認されているが大島からは確認されていない種, それ以外の種からもさらなる追加種が見込まれる.

末筆ながら, コマルムネゴミムシダマシの標本を確認して下さった秋田勝己氏と益本仁雄博士に心より御礼申し上げます.

なお, 伊豆大島での調査は科研費 (24510333; 研究代表者: 小島弘昭) の助成を受けて行われた.

引用文献

- Akita, K. and K. Masumoto, 2013. New or little-known tenebrionid species (Coleoptera) from Japan. *Elytra*, Tokyo, new series, 3(2): 237–254.
- 平野幸彦・上田康之・渡 弘・吉田篤人, 1993. 伊豆新島産甲虫類採集記録. 神奈川虫報, (104): 1–12.
- 神谷一男, 1931. 伊豆大島産甲虫類に就いて (予報). 科学の農業, 12(2): 19–25.
- 川畑喜照, 2010. 伊豆諸島八丈島の甲虫 VI. 神奈川虫報, (170): 21–30.
- Löbl, I., O. Merkl, K. Ando, P. Bouchard, M. Lillig, K. Masumoto, and W. Schawaller, 2008. Tenebrionidae. 105–352 pp., In Löbl, I. and A. Smetana eds., *Catalogue of Palaearctic Coleoptera Vol. 5, Tenebrionoidea*, Apollo books.
- Masumoto, K. 1985. The Japanese species of the genus *Gonocephalum* (Coleoptera, Tenebrionidae). *Elytra*, Tokyo, 12(2): 27–37.
- Masumoto, K. and N. Nishikawa, 1986. Revisional study of the species of the genus *Uloma* from Japan, Korea and Taiwan (Tenebrionidae, Coleoptera). *Insecta Matsumurana*, new series, (35): 17–43.
- 長尾 悟, 1976. 伊豆諸島のズビロキマワリモドキ. *Damaster*, 3(1): 4.
- Nakane, T., 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions XIX. *Frangmenta Coleopterologica*, (6/7): 26–30.
- 西川協一, 1951. 大島. *Insect Magazine*, (6): 8.[未見]
- 大野正男, 1977. 伊豆大島の昆虫相 (1) 文献資料篇. 東洋大学紀要教養課程篇, (20): 89–102.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1959. 八丈小島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 5 (2): 47–64.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 14(1): 1–48.
- 高橋 敏, 2011. ゴミムシダマシ科. pp. 29–123, 初宿成彦(編) 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (1) ゲンゴロウ科, ゴミムシダマシ科, ナガクチキムシ類. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 43 集.
- 上田康之・高崎鉄也・露木繁雄・吉田篤人・渡 弘, 1994. 神奈昆有志による八丈島甲虫採集報告. 神奈川虫報, (108):

- 1–14.
- 梅谷献二, 1952. 伊豆大島春の昆虫. 採集と飼育, 14 (6): 167–169, 179.
- 梅谷献二, 1956a. 新島見聞記, 伊豆七島昆虫風土記 III. 新昆虫, 9(3): 8–13.
- 梅谷献二, 1956b. 神津島, 伊豆七島昆虫風土記 IV. 新昆虫, 9(9): 34–38.
- 渡辺泰明・相馬州彦, 1972. 三宅島の昆虫相. 東京農業大学農学集報, 17(1): 1–58.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

(野村周平 国立科学博物館動物研究部)

【短報】熊本県におけるコメツキムシ科甲虫の4未記録種, および総種数

Lewis (1894) は, 日本からコメツキムシ科 104 種を記録したが, そのうち少なくとも 39 種は Lewis 本人が 1881 年 4 月中旬から 5 月下旬に熊本県を訪れて採集したものである (北野, 1974). このことから, 熊本県がコメツキムシ科甲虫の研究において重要な地域であることは疑いようがない. 熊本県における分布記録は, 松浪ら (1974), 大塚ら (1977), 大塚ら (1979) によくまとめられており, この時点で 112 種が確認されていた. これ以後も, 熊本昆虫同好会報においてコメツキムシ特集号が組まれるなど, 多くの分布記録が蓄積されてきた (e.g. 城戸, 1980; 大塚ら, 1985; 大塚, 1996, 1997, 1999, 2001, 2003, 2005; 中島, 1997, 2000, 2001). しかし熊本県に分布する本科の明確な種数は明らかでない. 筆者は, これまで熊本県から未記録と思われる種を複数得ているため, 以下に報告するとともに, 種々の分類学的な変更を考慮した上で, 熊本県から記録された種数の集計を行った.

1. ムラサキヒメカネコメツキ *Limonius eximia* (Lewis, 1894)

1♂ (図 1), 熊本県八代市白鳥山, 4–6. V. 2012, 伊藤玲央採集・筆者保管.

本州, 四国, 九州各地から記録されており, 九州からは福岡県 (高倉, 1970), 大分県 (城戸, 1997; 堤内, 2006) から記録されている. 本個体は, チドリノキ *Acer carpinifolium* の花を摘んで得られた.

2. クロサワツヤケシコメツキ *Megapenthes kurosawai* Suzuki, 1986

1♀, 熊本県八代市白鳥山, 15. V. 2011, 筆者採集・保管; 2♂♂ (図 2), 同所, 4–6. V. 2012, 伊藤玲央採集・筆者保管.

分布の北限は青森県で本州, 四国各地から記録

されており、九州では福岡県（大平, 2007, 2009, 2011）と大分県（大平, 1988; 堤内, 2010）から確認されている。採集個体はカツラ *Cercidiphyllum japonicum* の生木にできた樹洞から得られた。雌の前胸背板は赤色である。

3. クロホソキコメツキ *Procræus cariniceps* (Lewis, 1894)

3♂♂, 熊本県八代市白鳥山, 15. V. 2011, 筆者採集・保管; 6♂♂ (図3), 同所, 4-6. V. 2012, 伊藤玲央採集・筆者保管。

北海道から九州まで各地で記録されているが、概して得難い種である。九州からは大分県（堤内, 2000, 2010）でのみ知られていた。調査標本はカツラ *C. japonicum* の生木にできた樹洞から採集された。

4. ヒメコガネホソコメツキ *Sericus* (*Shirozulus*) *hiramatsui* (Ôhira, 1995)

1♂ (図4), 熊本県八代市泉町樺木 (標高 980 m), 29. IV. 2012, 筆者採集・保管。

和歌山県で得られた個体をもとに記載され、日本の各地に広く分布していると思われるが、正確な分布域はまだ明らかになっていない。報告されている分布記録は関西以西のものが大半で、1例のみ秋田県から知られている（尾崎ら, 2006）。近縁種間の形態が非常に似通っており、現状、雄交尾器の形態を用いなければ種の識別が困難であることが、分布域の把握の妨げになっていると思われる。九州では大分県（堤内, 2000, 2010）からのみ記録されていた。本個体はイロハモミジ *Acer palmatum* の花を網で掬って得られ、同所的にコガネホソコメツキ *Sericus* (*Shirozulus*) *bifoveolatus*

(Lewis, 1894) と未記載種 *Sericus* sp. も得られた。*Shirozulus* 亜属を *Sericus* 属の同物異名とする考えもあるが（Kishii, 1994）、本稿では亜属とする考え（Suzuki, 1999）に従った。

本報告により、熊本県からコメツキムシ科は 168 種 5 亜種（基亜種を除く）が記録されることになる。九州において本科が最もよく調べられている大分県では 182 種 8 亜種（堤内, 2008, 2012a, b; Arimoto, 2013; 有本・堤内, 2013）が知られていることから、本県でも同程度の種数が分布していることが予想され、今後も調査の余地は十分に残されていると思われる。

末筆ながら、貴重な標本を提供いただいた伊藤玲央氏（九州大学大学院昆虫学教室）および文献の入手に協力いただいた今坂正一氏（久留米市）に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Arimoto, K., 2013. Three new species of the genera *Ampedus* and *Limonicus* (Coleoptera, Elateridae) from Kyushu, Japan. *Elytra*, Tokyo, new series, 3(1): 73-82.
 有本晃一・堤内雄二, 2013. 九州におけるヘリアカカネコメツキの記録. さやばね ニューシリーズ, 10: 23.
 城戸克弥, 1980. 2種類の九州未記録のコメツキムシについて. 北九州の昆虫, 27(3): 126.
 城戸克弥, 1985. 大分県黒岳の甲虫類(2). 北九州の昆虫, 31(1): 5-8.
 城戸克弥, 1997. 大分県黒岳の甲虫類(9). 北九州の昆虫, 44(1): 65-69.
 Kishii, T., 1994. Notes on the Taiwanese Elateridae collected by Mr. M. Yagi in 1992, with the descriptions of three new species (Coleoptera). *Entomological Review of Japan*, 49(1): 5-15.
 北野竜海, 1974. G. Lewis と熊本県のコメツキムシ. 熊本昆虫同好会報, 19(3): 21-23.
 Lewis, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)13: 26-48.



図1-4. 1:ムラサキヒメカネコメツキ; 2: クロサワツヤケシコメツキ; 3: クロホソキコメツキ; 4: ヒメコガネホソコメツキ. スケールはすべて2.0 mm.

- 松浪秀太郎・大塚 勲・荒牧英統・直海俊一郎・直海昌二郎, 1974. 熊本県のコメツキムシについて. 熊本昆虫同好会報, 19(3): 1-19.
- 中島英貴, 1997. 熊本県産コメツキムシの採集記録. 熊本昆虫同好会報, 43(2): 9-11.
- 中島英貴, 2000. 熊本県産コメツキムシの採集記録 (3). 熊本昆虫同好会報, 45(2): 9-14.
- 中島英貴, 2001. 熊本県産コメツキムシの採集記録 (4). 熊本昆虫同好会報, 47(2): 1-4.
- 大平仁夫, 1988. 西村五郎氏採集の九州産のコメツキムシ. 北九州の昆虫, 35(3): 158-159.
- 大平仁夫, 2007. 九州に産するコメツキムシ類の若干種の記録. Korasana, (75): 24-26.
- 大平仁夫, 2009. 九州に産するコメツキムシ類の若干種の記録 (2). Korasana, (77): 37-38.
- 大平仁夫, 2011. 九州に産するコメツキムシ若干種の記録 (3). Korasana, (79): 15-18.
- 大塚 勲, 1996. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (6). 熊本昆虫同好会報, 41(3): 1-6.
- 大塚 勲, 1997. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (7). 熊本昆虫同好会報, 43(2): 1-7.
- 大塚 勲, 1999. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (8). 熊本昆虫同好会報, 44(2): 5-9.
- 大塚 勲, 2001. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (11). 熊本昆虫同好会報, 47(2): 5-9.
- 大塚 勲, 2003. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (12). 熊本昆虫同好会報, 49(2): 23-27.
- 大塚 勲, 2005. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (13). 熊本昆虫同好会報, 51(2): 9-12.
- 大塚 勲・直海俊一郎, 1977. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (1). 熊本昆虫同好会報, 23(1): 1-9.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1979. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (2). 熊本昆虫同好会報, 24(3): 1-14.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1981. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (3). 熊本昆虫同好会報, 26(2): 1-12.
- 大塚 勲・荒牧英統・吉崎一章, 1985. 熊本県のコメツキムシに関する資料 (4). 熊本昆虫同好会報, 31(2): 1-16.
- 尾崎俊寛・佐藤福男・沼田 仁・加納彦一, 2006. 秋田県のコメツキムシ. 秋田自然史研究会, 74pp.
- Suzuki, W., 1999. Catalogue of the Family Elateridae (Coleoptera) of Taiwan. Miscellaneous Reports of the Hiwa Museum for Natural History, (38): 1-348.
- 高倉康男, 1970. 鷹巣山の甲虫類 (1). 北九州の昆虫, 16(3): 65-72.
- 堤内雄二, 2000. 九州未記録のコメツキムシ 5 種. 月刊むし, (356): 40-41.
- 堤内雄二, 2006. 大分県のコメツキムシの記録 (1). 二豊のむし, (44): 1-22.
- 堤内雄二, 2008. 九州本土でフタキボシカネコメツキを採集. 月刊むし, (444): 44.
- 堤内雄二, 2010. 大分県のコメツキムシの記録 (2). 二豊のむし, (48): 72-98.
- 堤内雄二, 2012a. 大分県のコメツキムシの記録 (3). 二豊のむし, (50): 1-10.
- 堤内雄二, 2012b. 九州未記録のクリイロツヤハダコメツキ. 月刊むし, (502): 5.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

【短報】日本産カミキリムシの興味ある記録

筆者らは、(独) 農業環境技術研究所・昆虫標本館所蔵の藤村コレクションを整理調査する中で、記録に残すべき興味ある標本を見出したので報告する。

1. 1948年に広島市で採集されていたツシマサビカミキリ

1948年5月に広島市で採集されたツシマサビカミキリ *Ropica tsushimensis* Hayashi, 1972 が見出された (同定ラベルは“タイリクフタホシサビカミキリ/*Ropica dorsalis*/Schwarzer, 1925”となっていた)。

ツシマサビカミキリは対馬特産種であったが、最近では瀬戸内海の小豆島や岡山県の牛窓町および犬島、前島、長崎県の五島列島からも記録されている (楨原, 2007)。対馬に船で行った人なら分かると思うが、港の岸壁には薪が積み上げられている。この薪は船で各地に運ばれていくのである。

かつて対馬から福岡には頻りに材が運ばれていたようで、その材と共に各種カミキリムシが移動していたと思われる。実際に、1938～1946年と1956～1959年に福岡市の燃料店ではハラアコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) が採られていた (楨原, 1984)。また、同市の筥崎宮では1954年にチョウセンシロカミキリ *Olenecamptus riparius* Danilevsky, 2011 が採れたこともあった (楨原, 1976; *O. subobliteratus* Pic, 1923 として記録)。

五島列島や瀬戸内海地域は水産業が盛んで、対馬とも頻りに交流があったと推測される。1948年に採集されていたということは、それ以前に対馬より広島市に侵入していたことに疑いの余地はない。広島市に原爆が投下されたのが1945年8月であることを考えると、1946～1948年の間に対馬から広島市にツシマサビカミキリの幼虫の入った薪が持ち込まれたと考えるのが妥当だろう。

採集データ

1♂ (所蔵標本番号 24-0474888; Figs. 1, 2), “MUKOH-UJINA/Hiroshima city./May 17, 1948./Coll. T. FUJIMURA”.

2. シダ植物より羽化したアマミキボシカミキリ

キボシカミキリ *Psacotha hilaris* (Pascoe, 1857) は生木加害でクワ科植物を主な食樹としている。クワ科以外ではムクノキやウラボシ科エノキなども本種の食樹として知られている (大林・新里, 2007)。藤村コレクションを整理中、シダ植物のヘゴノキ *Cyathea spinulosa* (ヘゴ科) より羽化したアマミキボシカミキリ *Psacotha hilaris maculata* Breuning,